

ジブリの絵職人 男鹿和雄さん… ふるさとへの想いを語る

9月20日から平福記念美術館において「男鹿和雄展」が開催されますが、8月1日、男鹿和雄さんが展覧会の打ち合わせのために角館を訪れました。当日、男鹿さんは、石黒市長と面談したほか、お忙しい中を、インタビューに応じてくれました。



男鹿和雄プロフィール

1952年生まれ、大仙市太田町出身、東京都在住。角館高校第22期生。スタジオジブリの「となりのトトロ」をはじめとするアニメーションの背景画を数多く手がける一方、挿絵や絵本の制作などにも取り組んでいる。

■地元での展覧会に寄せて

◇:今回地元で男鹿さんの展覧会が開催されることになりましたが、率直なご感想をお聞かせください。

(男鹿):地元で開催するということが、うれしさ半分、照れくささ半分というところですが、もともとこの展覧会を開いてもらう時に、背景画は縁の下で力持ちなので、個人として取り上げてもらえるというにはかなり抵抗があったんですね。東京でやった時も、抵抗はあったんですけど、個人の背景画という前にスタジオジブリのアニメーション映画の一部ですから、その裏舞台を皆さんに見てもらえる機会ということで、やはりうれしいことではありますね。秋田で開いてもらうことについては、卒業した角館高校のあった場所(平福記念美術館の場所)ということもあり、学校に通っている頃は想像すらできなかったもので、何か不思議な思いはします。

私が描いた背景画が地元の秋田の風景に似てるっていう人がたくさんいますが、確かに生まれ育った場所ですから、描いているうちに、ついそんな感じで描いてしまうというのはあると思いますね。(展覧会を)見てもらって喜んでもらえればいいなど、照れくささを超えて、角館で開いてもらえることは嬉しいという、そういう思いはありますね。

■原風景は秋田の風景

◇:秋田の風景に似ているという話ですが、今回のPRで秋田の原風景という風に使わせていただいているんですが、実際にその中の原風景といわれる場所はありますか。

(男鹿):何が具体的にどうというわけではないんですが、夏休みに虫を採ったり川で魚を採ったりとか、そういう生の風景が欲しいんですよね。今住んでいる家は八王子にあって、川と山があって、秋田に近い風景に見ようと思えば見れるんですが、それでも、描きながら困ったときに必ず思い出すのが子供の頃の秋田の風景、そういうのが、ところどころに出てきたりするというのが、「秋田の風景に似ているということ」ではないかと思います。

あとは、ジブリの高畑勲監督も宮崎駿監督もそういう風景に対する演出が非常に上手な方ですから、誰が見ても懐かしい風景に見えるような、そういうカットが出てくるんです。それに色を付けて肉づけするのが僕らの仕事なんですけど、その色を付ける段階とか、小物をそろえるとか、木とか山とか川を描くとき、秋田の風景を思い出して描いてしまう。その辺りが、秋田の風景が原風景になっていると見られる部分であるだろうと思います。

■角館高校の頃の思い出

◇:高校という話が出ましたけれども、高校の時はスキー部だったとお聞きしたのですが。

(男鹿):途中で挫折したんですけど、ジャンプと距離の複合、その頃の角館高校の場合は必ず複合をやらされたんですね。複合の場合のほうが上位に入る可能性が高いということ。

◇:ジャンプも飛んだんですね。

(男鹿):ジャンプも飛びました。角館高校の20~30m台で、2月~3月頃になれば、幅がこんなにも狭いんですね(手で幅を表現)。

あれから外れて落ちこちたことも何回もあるし、県大会の時は田沢湖の45m台だったんですが、練習している時、横から落ちたんですよ。その時に大会の役員に「あれは棄権させる」と言われました(笑)。走るほうはわりと調子良いときもあったんだけど、ジャンプの方は怖かったです50m台だったんですけど、あれも怖かった。怖かったけど目をつぶってやぶれかぶれで飛んだら、その時いつもと違う感じで、フワッという感覚で飛べたんですが、先生はそれを見て「あれでいいんだ」と言われたんだが、「あれ」というのが全然再現できるような状況でなくてね(笑)。

◇:高校時代は、美術関係の方はどうでしたか。

(男鹿):美術の時間だけです。美術の時間は、ただまじめにやらなくて良いという、そういう面白さはありましたが、あとはスキー部の入部案内のポスター描かされたりとか、その程度のことだったですね。

◇:今になってみると貴重な作品ですね。

(男鹿):ジャンプを飛んでる絵を描いた記憶があります。

■夏休みの思い出

◇:秋田の生活で印象に残っていることは。



「となりのトトロ」美術ボード(1988年) © 1988二馬カ・G

ジブリの絵職人

男鹿和雄展

会期 平成20年9月20日(土)~11月4日(火)

会場 角館町平福記念美術館

入館料 一般700円(前売600円)

高校生500円(前売400円)

小・中学生200円(市内の小・中学生は無料)

(男鹿):高校の2年の時だったかな。夏休みに、山菜採りの師匠的な存在の方が、鶴の湯の奥の方で下刈りの仕事をしていたんですが、怪我をして山を降りてきて、代わりにお前行かないかと言われ、下刈り作業を2週間ぐらい行ってきたことがあるんです。あれは面白かったですよ。飯場に6、7人の大人と、あと賄いの人で、いつかそれ本にしたいなと思うぐらいなんです。構成のメンバーがそれぞれ面白い方で、なんかいわくありそうな人とか、ドラマにすれば个性的な人がたくさんいて、鶴の湯の飯場に泊まって、そこから歩いてどのぐらいだったでしかね、30分以上はかかったと思うんですけど。それで、行く途中にイワナ釣りが好きな人がいて、少しやっていくかということで、仕事をちょっとサボるわけですよ。奥地だから今日のぐらいい仕事やったかなんて誰も分らないわけですよ(笑)。

■子供の頃の遊び

◇:子供の頃の思い出は。

(男鹿):やっぱり我々子供の頃から、遊ぶことといえば、川で雑魚獲りとか、山菜採りとか、そういうことしかないもんですから。あとは、「ぼくら」とか「少年画報」とかあいう都会の匂いのするものに触れるのは月にいっぺんで、そういうのに付録があるわけですよ。ダンボールで印刷されたのを最初は使んですが、すぐ壊れてしまうので、板を使って丈夫なものを作ります。あとは、メンコを買ったり、学校で、太田の小学校は廊下が広いんで、学校中の男の子たちは、バッタコやメンコなど、学年関係なくやっていました。そういう記憶があります。

◇:そうした原体験が作品に反映されているということでしょうか。

(男鹿):そういうあたりが、アニメーションの背景描いてても、ふっと思い出されること

があるんですよ。アニメーションの背景ってというのは、できるだけ早く描いていくというのがあって、基本的に早く描くのが義務付けられていて、あまり長い時間かけてはいけないんですよ。さっき言ったように、3秒、4秒の間の短い時間のもので、印象がこんな感じだったというはつきりきちんと描く絵よりも、枯葉でも葉っぱでも木でも、まあこんな感じという、こんな感じがおおざっぱに描きあがっていれば、これでよしとされたんです。背景描くときは、画用紙を1回水で濡らして、湿らした状態で描くんですが、ポスターカラーという絵の具を使って、たとえば空を描くとき、下の方を明るくぼかして、上の方が濃い青でそこにやわらかい雲を描かなければいけないという時、雲というのは濡れている状態で描かなければ、ぼけた状態を描けないんですよ。空を描いて、そして、山とか、建物とか描く時、地塗りという大雑把なものを描くのは、ほとんど30分とか1時間ぐらいの内に描いてしまうんですよ。画用紙が濡れている間に立ったままで描くわけです。その時に、ここに何描くとか、考えてなかった物も咄嗟に出てくる時がある訳です。足元のところに、ここに草、花を描いた方がいいんでないかとか、花何がいいかな、そうすれば、ここに子供の頃遊んだ時に畑に咲いていた花とか、名前は思い出せないけれども、色、形は思い出せる。そんな感じで描いていきますから、いちいち図鑑を調べてということはないですね。最後に仕上げは丁寧にやりますけれど、ちゃんと描かなければいけないものは、図鑑を調べたりして描くんですけど、それほどきちんとしてなくても良い場面もあれば、そのまま地塗りのままで済ます時もあり、そこらへんがいちばん、子供の頃の記憶が残される場所かもしれないですね。地面のでこぼことか、砂利道とか、家の裏側とか、小屋の裏側とか、10年も前からそのま



男鹿和雄さん(左)と石黒市長(右)

まの状態かもしれないという、昔からそのままというか、結構目にする風景を、見るといいもんだなと思いつつ描いていますね。

■たくさんのご来館をお待ちしています

◇:9月20日から展覧会が始まるわけですが、ここを見てもらいたいと地元の人に伝えることがありますか。

(男鹿):普段映画で見るとほんの2~3秒しか見ることが出来ない、背景だけをじっくり見てもらえる形というのは今までなかったものですから、本当はじっくり見られると恥ずかしいものがたくさんあるんですが、生活観のあるような小物とかもそれなりに描いているので、気がつかなかったところを発見してもらえれば、そういう見方も出来るんでないかと思うんですよ。その中にもし秋田らしい風景とかが出てきたら、これは思い出して描いたんだなと思っただければと思います。

◇:今日はお忙しいところ貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございます。9月20日のオープニングの際もぜひおいでください。お待ちしております。

(インタビューの内容は抜粋です)

■男鹿和雄展に関してのお問合せは 平福記念美術館内

男鹿和雄展実行委員会事務局

仙北市角館町表町上丁4-4

電話 (54)3888

男鹿和雄展関連イベント・協賛イベント

	イベント名	開催月日	会場
1	「よし笛ミニコンサート(はなちゃんず)」 男鹿和雄氏VS塩野米松氏トークショー(先着200人)	9月21日(日) 10:00~	榊細工伝承館
2	「となりのトトロ」DVD上映会 * 13:00~、14:30~の2回上映 * 入場無料/各回定員200人	9月21日(日)	榊細工伝承館
3	特別展示 * スタジオジブリの協力により秋田に馴染みの深い原画を展示	開催期間中	安藤醸造元「文庫蔵」
4	関連展示「男鹿和雄 第二楽章展 広島、長崎、そしてウミガメと少年まで」 * 「第二楽章」からビエソグラフ60点程度展示	開催期間中	新潮社記念文学館
5	小・中学校巡回の移動美術館 * 「となりのトトロ」ほかビエソグラフ5点を予定	9月~10月	仙北市内及び大仙市太田町内の小・中学校
6	男鹿和雄展記念スタンプラリー	開催期間中	角館町内8箇所
7	トトロの折り紙ワークショップ	開催期間中	美術館内カルチャールーム
8	男鹿和雄さんと抱返り溪谷を楽しむ会 男鹿和雄展オープニングセレモニー	10月12日(日)	抱返り溪谷
9	* 男鹿和雄さんを迎えてテーブルカットを予定 * 仙北市合併3周年記念として「仙北市民歌」を披露	9月20日(土) 8:30~	美術館前広場